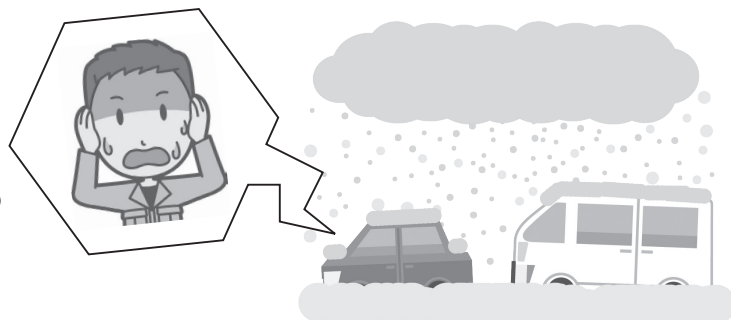


暴風雪災害への 備えはできていますか？

国土防災対策係Tel 54-2121



暴風雪による被害に遭わないために

暴風雪による被害は、晴天から悪天へと天気が急変したときに多く発生しています。

テレビやラジオなどで暴風雪が予想されることを知ったときは、今の天気が良くても油断することなく最新の気象情報や道路情報などを事前に十分確認し、無理をせずに出発は避けましょう。



**「数年に一度の猛吹雪」
「外出は控えてください」**

気象台からこのようなキーワードを使った情報が発表されたら、厳重に警戒してください。

もしも暴風雪に遭遇してしまったら

歩行中や屋外での作業中のときは

商店やコンビニ、人家などの建物の中に移動して天気の回復を待ちましょう。やむを得ず歩行する場合は、風で飛ばされてくる物に注意し、重ね着をするなどして体温が低下しないようにしましょう。

家の中にいるときは

FF式暖房機などの給排気口が塞がれていないか確認しましょう。また、出入口を確保するため、吹き溜まりの状況を見てこまめに除雪をしてください。

車を運転しているときは

運転中に暴風雪となり視界が悪くなった場合

道の駅やコンビニなどで天気の回復を待ちましょう。気象情報や道路情報を確認し、安全に運転できると判断した後に出発してください。

途中で立往生をしてしまった場合

ハザードランプを点滅させ停止表示板を置きます。その後、JAFなどのロードサービスまたは近くの商店や人家などに救助を求めましょう。避難できる場所や救助を求められる人家が近くに無いときは、警察や消防に連絡して救助を求めましょう。

車内で救助を待つ場合は、マフラーが雪に埋まると排気ガスが車内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあるので、車が雪に埋まった場合は原則エンジンを停止させましょう。防寒などでやむを得ずエンジンをかけるときは、こまめにマフラー周りを除雪してください。

窓を開けていても絶対に安全とは言えません。風向きや窓の開度などの条件によっては、窓を閉めているときより一酸化炭素中毒の危険性が高くなる場合があります。



冬場の停電に備える

最低3日分、できれば1週間分の飲料水や食料の備蓄をしましょう。

また、懐中電灯などの電池で使える明かりを用意し、停電時に情報入手のためのラジオ、携帯電話やスマートフォンの充電ができるよう電池式の充電器や充電用バッテリーを用意しましょう。

さらに冬場は、ポータブルストーブやカセットガス式のストーブなどの電気を使用しない暖房器具やカセットコンロ、防寒着や毛布なども用意しましょう。